様式④

教員活動状況報告書

提出日：令和　6　年　　2 月　　21　日
所　属：　　獣医 学部　　獣医　学科
氏　名：　　吉岡 亘　　職位：　　准教授
役　職：

Ⅰ　ティーチング・ポートフォリオ

1．教育の責任（教育活動の範囲）

講義では公衆衛生学に含まれる環境衛生学を、実習では環境衛生学ならびに食品衛生学分野を教えている。地球環境・地域環境・衛生学・公衆衛生の歴史と現状を学ぶことで、受講者が、ヒトと動物の生命・生活を衛(まも)ることができるようになることを目指す。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
獣医公衆衛生学(環境衛生)	獣医学科	必	4	146
獣医公衆衛生学 III	獣医学科	必	4	3
獣医公衆衛生学実習 II	獣医学科	必	4	146
獣医公衆衛生学実習	獣医学科	必	4	3
公衆衛生学	動物応用科学科	選	4	60
卒業論文	動物応用科学科	必	4	3
総合獣医学	獣医学科	必	6	166

2．教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

講義では、現在および未来のよい選択の基盤となる知識を身につけられるように、過去の事例を学ぶ。また、変わりゆく制度や基準について、最新の情報を伝えるとともに、その背景にある考え方を合わせて伝えることで、ものごとを整理して理解できるようにする。加えて、必要な情報を得る手段についても学べるようにする。

実習では、環境衛生や食品衛生における検査および評価に取組むことで、それらの原理について実感を伴う理解を得ることを目指す。目指すべきあり方として、より具体的には、手技を身につけ、実践上で生じる問題を解決し、データのバラつきや想定外の結果について理解し適切に対処できるようにする。

3．教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

過去の事例および現時点の制度は、効率よく学べる形によく整理して提示する。その上で、経緯や理由については、試行錯誤して考える時間をしっかり設ける。また、理解を問う小

試験をできるだけ積極的に実施する。総合して、必要な知識を要領よく獲得した上で出来るだけ深い理解が得られるようにする。

アクティブラーニングについての取組

実習科目ではレポート提出を課し資料の選択や制度等の理解および考察について講評を返すようにしている。

講義科目では講義の内容の理解を問う小試験を課している。この小試験は提出後にすぐ結果が分かるようにしてあり、かつ、繰り返し取り組めるようにしている。これらのことによって、充分な理解が得られるまで自主学習できると期待している。

ICT の教育への活用

講義内容をまとめた資料をファイルとして提供している。これにより、紙資源の節約や資料内検索による効率的な学習ができるものと期待している。

教室内での講義を遠隔でも視聴できるようにしている。また、講義を動画に保存して受講生に提供している。必要に応じて繰り返し復習できる状況を ICT により作ることができているのではないかと考えている。

小試験をウェブ上で受けられるようにしている。結果が自動的に即時に出るようにしてあり、短い期間で繰り返して集中的に学べるようになっている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）：B

問いかけや疑問を提示して考えさせる時間を設けるようにしている。

②学生の理解度の把握（A～C）：B

小試験を実施している。受検後にすぐ結果が本人に分かるようにすることで、理解が不十分な点を直ちに改善できると考えている。さらに、正答率が低い問題について、次の講義の機会にあらためて説明を加えることで理解度を向上させるようにしている。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）：B

レポート課題や小試験を課している。これらは自主学習として位置づけている。一方で、アンケートによる自主学習に関する評価が低くなっている。より工夫を凝らして、自主学習を促すべきなのだろうと考えている

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)　(A～C)：B

質問に対しては丁寧かつ機を逸しない内の回答を心掛けている。今後についてはより質

問をしやすい状況を作るようにしていきたい。

⑤双方向授業への工夫（A～C）：B

講義内容は資料を穴埋めにしたり問いかけをする状況を作ったりといった工夫をしている。講義中よりも講義後の方が質問は多く、今後も講義内のみならず講義外でも質問し易い雰囲気を作っていきたい。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

実習では、国家試験に取り上げられた検査方法および取り上げられそうな器具を用いるなどしている。これらの情報をまとめた資料を 6 年生に対して提供した。この資料に含めた器具・検査について本年度の国家試験講義で問われた。

講義では、国家試験で問われやすい国際条約などの事項や時事的な事柄などについて特に重点的に解説している。また、小試験の問題も国家試験の形式や内容を踏まえて作っている。

5.学生授業評価（分量の目安：4 ～7 行（160 字～280 字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

レポートに対する講評していることについて前向きな反応が多い。そこで、レポートへのフィードバックの機会を設けるようにしている。

高圧蒸気滅菌装置での滅菌等時間を要する操作が実習では生じる。このことについて不満の声がある。滅菌操作前の試薬調整を先に実施するなどの工夫はしている。

② ①の結果はどうでしたか。

フィードバックや重ねての説明で理解できたことがあるという受講生からの反応があった。

時間が長いという指摘はある。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

時間を要する実技であっても修得・経験は重要なのでやむを得ないだろう。

6.学生の学修成果（分量の目安：4 ～7 行（160 字～280 字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

授業内容をまとめた配布物はできるだけ早く提供する。講義内容を詰め込み過ぎないように注意を払い、説明に軽重を付けるように心がけている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

試験の各問題の難易度を平易なものから難解なものまで用意することで様々な理解・習熟度合いの受講生を適切に評価できるようにすることを心掛けた。このような評価方針に対して、ほとんどの受講生が必須の水準を超え、一部の受講生が高い水準を示した。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2 行（40 字～80 字））

FD 研修「ティーチング・ポートフォリオ（ブラッシュアップ研修）」（2023 年度）を受講している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

講義について、短期的にはまず、内容の過不足がないか見直しをする。その上で、体系立ててわかりやすい構成を考える。長期的には、詰め込むより自分で調べ、その内容が身につくような課題を考えていきたい。

実習では、原理原則が理解できるような解説と実際に行う実習とを組み合わせ、実感を伴う理解が得られることを目標とする。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス， 學理での小テスト， レポート課題， 試験問題， 講義資料， 授業評価アンケート結果， 講義受講生からのメールでの質問とその回答， 研究室内での講義資料事前検討